

# 日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告 (2005年10月～12月号)

## 第4回 JSPS フォーラムの開催



開会の辞を述べる Prof. Hubert WHITECHURCH 及び中谷陽一センター長

フランスにおける第4回 JSPS フォーラム「Oceanography」が、2005年11月18日(金)ストラスブールの Louis Pasteur 大学にて共催者であるフランス高等教育・研究担当省及び Louis Pasteur 大学の全面的な協力の下、バ・ラン県議会や日仏学会館等の支援を受け、250人を超える参加者を得て開催されました。

開会の辞は Prof. Hubert WHITECHURCH (Louis Pasteur 大学地球研究所教授) と中谷陽一ストラスブール研究連絡センター長に始まり、次いで Louis Pasteur 大学学長の代理として Alain BERETZ 副学長、在ストラスブール日本国総領事館の庄司隆一総領事、フランス研究省の Jean-Paul MONTAGNER 研究部次長、ストラスブール市長 Fabienne KELLER 氏及びストラスブール都市圏議会議長 Robert GROSSMAN 氏の代理として Sophie ROHFRITSCH 助役から、本フォーラムの開催意義及びテーマへの共感、日本学術振興会の日仏学術交流貢献への謝辞などのご祝辞を賜りました。最後に小野元之日本学術振興会理事長からのメッセージを中谷センター長が代読し、講演者や出席者及び関係協力機関の支援に対する謝意が述べられました。



在ストラスブール日本国総領事館 庄司隆一総領事



ルイ・パスツール大学副学長 Prof. Alain BERETZ

午前の部では、最初に John LUDDEN氏 (CNRS地球科学部長) により「深海底フロンティア」と題して、ヨーロッパにおける深海底フロンティア研究プログラムの主な目的、研究計画内容、研究観測体制などについて紹介がありました。

次いで、木下正高博士 (JAMSTEC 海洋底観測研究グループリーダー) により、「日本南海トラフにおける M8 クラス地震発生断層における IODP 掘削」と題して、プレートの沈み込み運動とそれに伴う様々な時空間スケールの地殻活動の概説、南海トラフ沿い巨大地震発生のメカニズムの説明があり、また統合国際海底掘削計画 (IODP) において新たに建造されたライザー掘削船「ちきゅう」についても紹介されました。



JAMSTEC 海洋底観測研究グループリーダー木下正高博士

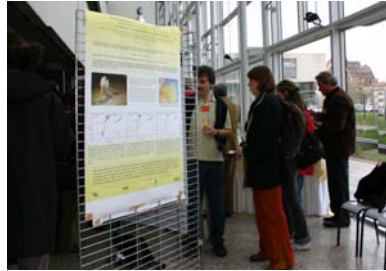
Jean MASCLE 氏 (CNRS 主任研究員、Villefranche-sur-Mer 海洋研究所) からは「誰も見たことがなかった地中海の姿：10年間の広域精密海底地形マッピング結果」と題し、ヨーロッパ各国の海洋研究所の10年に及ぶ共同研究により、地中海の広域精密海底地形図を作成し、過去および現在の地中海における動的な地質学的プロセスに対する我々の理解を大きく進展させたことが紹介されました。

次いで、武田重信氏（東京大学大学院農学生命科学研究科助教授）が「海洋における基礎生産および炭素循環の制御要因としての鉄の役割」と題して、北太平洋亜寒帯域の東西で実施された三回の現場鉄撒布実験の結果を基に、鉄の供給によって海洋の基礎生産がどのように促進され、プランクトン生態系がどのように応答するのかを調べ、海洋表層から深層への炭素の輸送に鉄が重要な影響を及ぼすことを示しました。

昼食時にはフランス高等教育・研究担当省の予算で招聘された日仏若手研究者 8 名によるポスターセッションが設けられました。そして午後の部に先立ち、ストラスブール研究連絡センター荒木良江研修生から JSPS の日仏学術交流についての事業紹介がありました。



東京大学大学院農学系研究科  
武田重信助教授



昼食時のポスターセッションの様子



ストラスブール研究連絡センター  
荒木良江研修生

午後の部では、Phillip GROS氏（IFREMER水産研究室長）が「ビスケー湾における水産のダイナミクス：変動する環境下での持続的な資源の利用」と題し、ビスケー湾における水産のダイナミクスを、生物・環境要因とともに社会経済学的な要因も含めた複合システムとして捉え、魚類資源量の新規加入と漁獲利用の複雑な相互作用と、それに対する資源管理方策の有効性を解説しました。

安田一郎氏（東京大学海洋研究所教授）は「太平洋北西部における水産海洋学：マイワシ資源の長期変動と北太平洋の海洋環境・気候との関係」と題し、日本近海の重要な漁獲対象種であるマイワシの資源量が長期的に大きく変動する機構について、黒潮流域の冬季から春季にかけての表面水温の変動がマイワシ幼魚の生残と関係があることを明らかにするとともに、冬季の鉛直混合の強さが春季の植物プランクトンブルーム規模を決定し、マイワシの餌環境に影響を及ぼすことを示しました。



東京大学海洋研究所  
安田一郎教授

次いで、Bernard BARNIER氏（CNRS主任研究員、Grenoble-LEGI研究所）が「渦解像（高解像度）海洋・海水循環モデルの最近の進歩」と題し、渦解像モデルを用いて海洋・海水循環を記述する全球モデルのシミュレーションを行い、海洋の流動場や渦現象を精度良く表現できることを紹介しました。同モデルは将来、気候変動及び関連する大気海洋の現象の実態を解明する強力なツールとして期待されています。



各講演は、Jean-Paul MONTAGNER 氏、Anne-Marie KARPOFF 氏、Jose HONNOREZ 氏、向井千秋氏、Hubert WHITCHURCH 氏、伊藤哲一氏の司会によって行われ、活発な質疑応答はコーヒープレークの時間にまで及びました。

なお、本フォーラムの様子はフランス文部科学省推進のマルチメディアシステムの Canal-U を通して、インターネット同時中継で世界中に配信されました。現在も、第 1 回、第 2 回、第 3 回フォーラムと同様、教育研究資料として記録保存され、講演内容は随時視聴可能です。

<http://www.canal2.tv/>

## Journées de la Recherche Franco-Japonaiseの開催

CNRS 主催、日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター共催の”Journées de la Recherche Franco-Japonaise” (英文名称: ”Workshop on Japanese - French Research Cooperation”)がフランスの研究機関 (CNRS、INSERM、INRA、MINEFI、CCC、INRIA、Institut Pasteur、IFREMER、CEMAGREF、CIRAD) 及びフランス高等教育・研究担当省、フランス外務省の協賛のもと、2005年12月1~2日の2日間パリ CNRS 本部において、両日ともに約150人の参加者を得て、盛大に開催されました。このようにほとんどすべてのフランスの主要な研究機関と日本の学術機関が日仏研究交流についての集いを開くのは初めてのことです。



学振の事業を説明する木曾功理事及び中谷陽一ストラスブール研究連絡センター長



ノーベル物理学賞受賞者 Prof. Pierre-Gilles de GENNES による講演



ラウンドテーブルにて発言する深井宏国際事業部長

Workshop では平林博在フランス日本国大使をはじめとする日仏ご来賓の挨拶のあと、9つのセッションでフランスの各研究機関により各研究分野の日仏交流の現状が報告されました。日本学術振興会には半日間のプログラムが立てられ、木曾功理事による国際プログラムの紹介、中谷陽一ストラスブール研究連絡センター長による同センターの活動報告のあと、ノーベル物理学賞受賞者で JSPS フランス同窓会会員でもある Pierre-Gilles de GENNES 教授による“The hard life of inventors”と題する講演会があり聴衆を魅了しました。Workshop の最後にはラウンドテーブルで深井宏国際事業部長をはじめとする日仏各研究機関の代表者によって展望が述べられ、会は成功裡に幕を閉じました。

## フランス同窓会総会の開催



司会を務める Prof. Marie-Claire LETT 同窓会会長 (左)

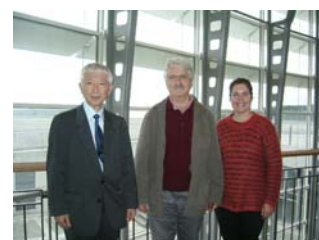
前述の”Journées de la Recherche Franco-Japonaise”の2日目に CNRS 本部において、JSPS フランス同窓会が開催されました。同窓会会長 Marie-Claire LETT 教授の司会で約30名のフランス同窓会会員により6人の追加評議員の選出、支部会の強化などの活動方針が採択されました。すべての参加者から自己紹介と今後の活動に関する意見が出され総会は大いに盛り上がりました。

支部会の強化の一環として、さっそく12月13日、14日には Université de Rouen 及び Université de Caen でノルマンディー支部会と JSPS ストラスブール研究連絡センターの合同による学振事業説明会が開催されました。(次回号にて詳細報告予定)

## 学振事業説明会の開催

### 10月13日 Université de Bretagne Occidentale (ブレスト) 訪問

フランスの北西端に位置する、ブルターニュ地方のブレストはフランスの海洋学研究のメッカです。Bretagne Occidentale 大学海洋学博士課程研究科長 Prof. Jean FRANCHETEAU (写真中央) から同大学海洋学研究所の歴史及び現状について説明を受けた後、JSPS の事業説明を行いました。またヨーロッパ大学海洋研究所 (IUEM) の所長 Prof. Paul TREGUER 代理 Dr. Marcia MAIA (写真右) の案内で同研究所の研究部門 (化学、生物、物理、地学、環境など) を訪問し、Dr. Laurent MEMERY (CNRS ユニット長)、Dr. Christophe HEMOND (CNRS 主任研究員) から各分野に関する説明を受けました。



## 10月14日 IFREMER (ブレスト) 訪問

1984年設立のフランス国立海洋開発研究所(IFREMER)はフランス本土及びタヒチに5つのセンターや24の観測所を持っています。そのうちブレストセンターは1968年設立のブルターニュ海洋学研究所を前身とし現在1000人以上の研究者・技術者・行政官が働いています。科学技術顧問 Dr. Myriam SIBUET、国際部長 Emmanuel THOUARD 氏らと意見交換を行なった後、IFREMERの研究スタッフ及び Bretagne Occidentale 大学博士課程学生に対し JSPS の事業説明を行いました(写真)。国際課長 Brigitte MILLET 氏の案内で同センターの研究部門(海洋工学、環境測定、海底資源、養殖学など)を訪問し、Prof. Eric DESLANDES (Bretagne Occidentale 大学)、Dr. Patrice KLEIN (IFREMER 主任研究員)らから各分野に関する説明を受けました。



## 11月2日 化学グランゼコール ECPM (クローネンブール) 訪問

ストラスブールの北の郊外クローネンブール(Cronenbourg)には複数の研究所があり、そのうち ECPM (Ecole Européenne de Chimie, Polymères et Matériaux de Strasbourg) では、フランスのみならずドイツ、イギリスなどヨーロッパの学生も含めた化学・高分子・物質の分野の修士及び博士課程の教育が行なわれています。副学長 Prof. Françoise COLOBERT、CNRS ユニット長 Dr. Pierre ALBRECHT らと意見交換を行なった後、JSPS の事業に関するプレゼンを行いました(写真)。また、その後同会場にて中谷陽一センター長による講演(講演題目:「From primitive membranes toward proto-cells」)が開催されました。



## 11月30日 Université Paris Dauphine (パリ第9大学) 訪問

NATO(北大西洋条約機構)旧本部の由緒ある建物に1968年に設立された同大学は政治学、法学、経済・経営学、社会学、情報学、数学の分野を持ち、北陸先端大学院大学をはじめとする世界の大学と学術交流協定を結んでいます。研究担当副学長 Prof. Elyès JOUINI(右写真中央)、国際担当副学長 Prof. Patrice GEOFFRON(右写真右)から大学の現状の説明を受け、JSPS の事業説明を行なった後、大学施設を見学しました。



12月に行った事業説明会については、次回号にて報告する予定です。

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター 事務担当: 研修生 荒木良江  
JSPS Strasbourg Office, Maison Universitaire France-Japon  
42a, avenue de la Forêt-Noire, 67000 Strasbourg, France,  
Tel: +33(0)3 90 24 20 17, Fax: +33(0)3 90 24 20 14, e-mail: [jsp@japon.u-strasbg.fr](mailto:jsp@japon.u-strasbg.fr)